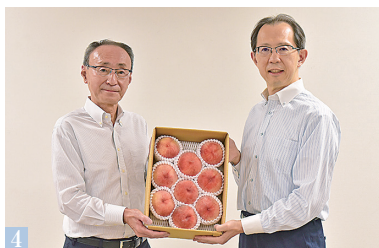




献上桃選果・箱詰式

今年で29年連続の指定を受けた献上桃の選果・箱詰式が8月1日、JAふくしま未来桑折総合支店で行われました。当日集荷された12万個の「あかつき」を光センサーに通し、糖度や大きさ、着色で選別された後、2次審査を経た180個（15玉・12箱）が献上桃として箱詰めされ、翌日に皇室・宮家へ献上されました。



1・2_ 形や着色を一つ一つ丁寧に確認し、献上桃を厳選 3_ 選り抜かれた最高品質の桃を献上用「白箱」に詰める 4_ 選果式終了後、高橋町長は内堀雅雄県知事を表敬訪問し、献上桃を贈呈

3年ぶりの桃のトップセールス

首都圏での桃PRのため、高橋宣博町長とJAふくしま未来佐藤廣武理事、伊達果実農協佐藤邦雄組合長らが7月14日、大田市場と豊洲市場を訪問し、他地域の桃の出荷状況などを視察。市場関係者との懇談では、町産桃の高値取引を依頼し、市場関係者からは安定した品質・数量の出荷が求められました。



1・2_ 当日朝に出荷された桃がずらりと並び 3_ 6次化商品の販売や町ガイドブックの配布も実施 4_ おすすめの桃を町職員と選ぶ買い物客

町職員による仙台駅桃PR販売会

仙台圏での桃の認知向上を図るため、桃のPR販売会が7月21日・22日の2日間にわたり、JR仙台駅2階東西自由通路で行われました。採れたての「あかつき」「暁星」「日川白鳳」を町オリジナルの箱に入れ販売。用意した約1,000個の桃は終了時間を待たずに完売しました。桃の他にも、6次化商品の販売や観光ガイドブックの配布などを行い、多くの人に町の魅力を発信しました。



5年ぶりの豊作を迎えた桑折町産桃を全国へPR

今年も町産桃「あかつき」が「献上桃」として県から指定を受けました。平成6年に初めて指定されて以来、29年連続で選ばれています。東日本大震災や原発事故、大型台風、せん孔細菌病、凍霜害などさまざまな困難に見舞われながらも、一度も途切れることなく「献上桃」の指定を受け続けています。生産者のためめぬ努力により、最高品質の桃の生産地が守られています。

町は、町産桃の魅力を広くPRするため、平成28年に「献上桃の郷」の商標登録を申請し認められました。この商標を最大限に活用し、さまざまな事業を展開しています。特に、仙台圏在住者をメインターゲットにしたプロモーション事業を次々と展開し、ブランドイメージの確立と知名度向上を図っています。今後も、桃生産農家の所得向上と産地維持・継承につながる事業を展開していきます。



ふくしま未来農業協同組合
代表理事組合長
数又 清市さん

献上桃「あかつき」は、昭和53年に福島で命名されて以来、県内最大品種となり、日本桃産業の礎を築いてきました。これも、度重なる災害や凍霜害などを乗り越えた農家の皆さんの努力のたまものです。今後も、全国へ誇る桃の産地維持のため最大限に協力していきます。



伊達果実農業協同組合
組合長
佐藤 邦雄さん

フルーツ王国ふくしまの中でも、最高品質の桃を生産している桑折町。「献上桃の郷」としてプライドを持って、日々努力を重ねています。より一層、桑折町の桃は格別においしいと味わっていただけるように、今後も農家の皆さんをはじめ、町や関係団体とともに精進していきます。

「献上桃の郷」の夏